



## 第6章 森林整備戦略の推進に向けて

第6章では、第5章までに述べた戦略推進の施策の柱を整理するとともに、戦略の進行管理と森林整備に関わるモニタリングについて整理する。

### (1) 戦略推進の施策の柱と進め方

本戦略の3つの柱となる 森林整備、 基盤整備、 森林資源の活用、における主な事業について整理する。

表15 施策の柱

施策の柱	市が行う主な事業	連携する主体
森林整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 林野施策、都市公園、自然公園、緑地保全の各事業の特性を踏まえ森林整備方針に従い、適切な森林整備を行う。</li> <li>・ 大規模私有林所有者による森林整備の推進に対する指導・助言を行う。</li> <li>・ 連携する主体間の協議会事務局を担い、効果的な森林整備を進める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 国土交通省六甲砂防事務所</li> <li>・ 林野庁兵庫森林管理署</li> <li>・ 環境省近畿地方環境事務所</li> <li>・ 兵庫県神戸農林水産振興事務所</li> <li>・ 兵庫県六甲治山事務所</li> <li>・ 兵庫県神戸土木事務所</li> <li>・ 私有林所有者 等</li> </ul>
基盤整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 都市公園、市有林における必要な基盤整備の実施とその効果を検証する。</li> <li>・ 合理的な基盤整備の方法に関する情報を広く公開する。</li> <li>・ 整備された管理道などの共同利用の推進を呼びかける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 国土交通省六甲砂防事務所</li> <li>・ 林野庁兵庫森林管理署</li> <li>・ 環境省近畿地方環境事務所</li> <li>・ 兵庫県神戸農林水産振興事務所</li> <li>・ 兵庫県六甲治山事務所</li> <li>・ 兵庫県神戸土木事務所</li> <li>・ 私有林所有者 等</li> </ul>
森林資源活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ こうべバイオガスへの森林資源の活用を推進する。</li> <li>・ 六甲山における公共施設への木材利用を推進する。</li> <li>・ 木質バイオマス活用に関する新たな技術開発を大学、企業等との共同で進める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 神戸市建設局下水道河川部</li> <li>・ 神戸市建設局道路部</li> <li>・ 大学等研究機関</li> <li>・ 市内企業</li> </ul>

森林整備戦略の目標年次は短期計画を2025年、長期計画を2050年としている。このため、108頁の表16に示すように、これまでの取組みを今後も継続するとともに、準備期間とする2015年までは神戸市有林を中心に森林整備手法などを整理していくとともに、基盤整備手法や組織体制、財源あるいは森林資源活用などの課題に対して、実施方針を定め、必要とされる事業等を早期に着手する。

戦略を推進するためには、各種情報を適切に市民に発信することが重要となる。特に、六甲山ブランドの形成によって施策を進めるためには、市民生活と六甲山との関係が身近に感じられるよう、各種の取組みを進めていく必要がある。

実施にあたってはPDCAサイクルによる進行管理を行うものとするが、特に2015年度までの間に、以下の事項を重点的に実施する。

- ・ 2012年度 戦略実施計画の立案
- ・ 2014年度 森林整備戦略に関する進捗状況の管理
- ・ 2015年度 森林整備戦略の進捗状況から2025年度までの短期計画の修正
- ・ その後も継続して1年毎の実施状況の確認と、中間の2020年度に検証と見直しを行う



表 16 施策の進め方

区分	組織体制の確立	森林整備	基盤整備	森林資源活用
今後も継続	・市民・企業等の団体との連携	・防災に配慮した森林管理 ・病虫害への対応 ・市民との協働による森林管理	・市有林等における多目的管理道の整備の検討	・再度山におけるクラフト利用 ・市民団体による木炭・薪利用
早期に着手 (2015)	・森林管理のための新たな組織体制の設立準備 ・六甲山ブランド形成主体への呼びかけ ・新たなファンドの仕組みの設立準備	・公有林・都市公園におけるモデル的森林整備 ・大規模所有私有林における間伐の推進	・市有林、都市公園における多目的管理道整備 ・市有林、都市公園における作業フィールドの設置	・こうべバイオガスへの活用 ・新たなデザインによる公共施設用材への利用 ・コンペの開催などによる六甲山デザインの実証
中長期に着手 (2025)	・多様な主体による森林管理組織の円滑な運営	・モデル整備の効果を踏まえた公有林における森林整備 ・六甲山全域の効果的な森林整備	・私有林も含めた六甲山全域の効率的な基盤の整備	・多様な森林資源活用による収益の確保 ・循環的な森林資源の活用

表 17 準備期間における施策の進め方

	2011年(平成23年)	2012年(平成24年)	2013年(平成25年)	2014年(平成26年)	2015年(平成27年)
森林整備戦略	<b>戦略策定</b> ・目指すべき将来像 ・ゾーニング ・具体的取組み検討 ・仕組みづくりの検討	<b>戦略実施計画</b> ・基礎データの整理 ・モデル地域の選定 ・具体的検討と検証 ・仕組みづくり 組織体制	<b>組織づくりと実践</b>		
森林整備	森林整備の推進	モデル地域での実証実験(市有林) 森林整備、市街地近接地での防災対策 モニタリング手法の検討		計画に基づく新たな森林整備の展開 モニタリングの実施	
新しい森林整備体制		民間事業者等ヒアリング	公的関与検討・調整	私有林経営計画	
RFMC		制度設計	森林管理のための組織(RFMC)づくり	森林管理等活動実施	
森林整備費用分担	森林法に基づく計画	市有林森林経営計画	私有林整備手法の検討・実施		
資金確保 基金寄付金制度など オフセット制度 (ミティゲーションバンク含む)		具体化検討・制度設計 (既存団体との調整) 事例調査	事業手法等の具体化 所有者等との調整	試験運用	本格実施
人材育成	人材育成(試行) 市民参加活動の実施	人材育成(試行) 市民参加活動の推進	育成及び指導プログラム等の検討	本格実施	
森林資源活用 (間伐材・枝葉等の林産物)		活用手法検討 企業・研究機関ヒアリング	森林整備と連携した取組み検討	森林資源活用開始	
バイオマスエネルギー KOBEGリーンスイーププロジェクト への木材搬出	バイオマスエネルギー利用に関する調査研究、モデル	事業検討	実証実験検討	実証実験、事業化検討	
試験実施					
基盤整備		市有林内実証実験 作業道整備、発生材搬出	基本計画(整備手法など)		本格実施
六甲山ブランド		デザインコンペ実施準備 関連事業者調査	コンペの実施		
その他の素材活用 (広報啓発含む)		民間事業者等ヒアリング		具体化策検討	実施
		ブランド化による広報啓発の検討		「六甲山ブランド」による啓発活動の推進	



## (2) 戦略の評価と進行管理

## 1) 戦略の評価項目と目標

本戦略に関する進行管理については、本戦略の目的である六甲山の森の恵みを「育てる」、「活かす」、「楽しむ」の3つの項目毎に、アウトプット指標のみならず、市民に効果が実感できるアウトカム指標を設定する。評価にあたっては、(仮称)六甲山森林整備戦略連絡会の強化なども含めて第三者も加えた評価委員会を立ち上げて、評価手法について検討を行うとともに着実な進行管理を行う。

表 18 森林整備戦略の評価指標

項目	アウトプット指標(例)	アウトカム指標(例)
育てる 森林整備の推進	森林整備面積合計 森林整備に着手した面積の変化を把握 等	六甲山に対する市民の意識 六甲山の果たす役割や市民の六甲山への親しみ度の変化を把握 等
育てる 森林作業性の向上	多目的管理道の整備延長 森林作業の効率性に関する変化を把握 等	
育てる 森林機能の向上	二酸化炭素吸収量の総量 二酸化炭素吸収量の変化を把握 生物多様性機能の向上 森林整備後の種数の変化を把握 等	森林整備の効果に対する認識 森林整備の推進に対する市民の理解度を把握
活かす 六甲山ブランド化 (森林資源活用)	森林資源の活用 六甲山の森林資源の活用数の変化を把握 六甲山ロゴマークの使用商品数などのブランド形成の変化を把握 等	ブランドの認知度 市民および来訪者の六甲山ブランドの認知度を把握 等
楽しむ 六甲山の多目的利用	六甲山利用者数 観光入込客数等から、六甲山の利用者数変化を把握 森林整備に関わる団体数 森林整備に関わる企業・団体数の変化を把握 等	六甲山利用者階層・利用目的 六甲山利用者階層・利用目的の変化を把握 等

## 2) モニタリングの実施

森林整備戦略を着実に実施していくためには、森林そのものの健全度をモニタリングしていくことが重要である。森林整備効果の検証と、整備手法の改良をはかるため5年程度をサイクルとして、モニタリングを定期的の実施する。

森林整備後、モニタリング調査によって森林整備の問題点を把握したうえで、森林整備方策を見直すなど、順応的管理サイクルに基づき、六甲山の森林整備を進める。

モニタリング項目には、樹木の種数および密度、林内照度、腐植土壌の厚み、生息生物(チョウ類等)などの項目を基本とする。

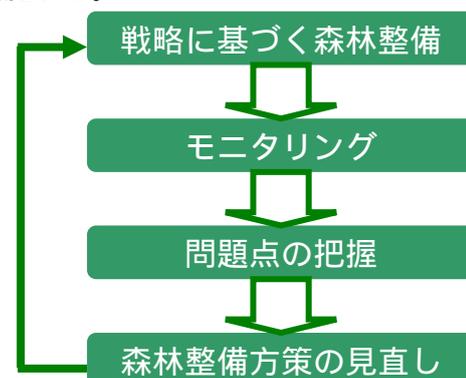


図 92 モニタリングの流れ